千葉県民の皆様へ——

二十億円の使途不明金問題に端を発した学園の民主化を求める日大斗争は九月四日の、政・財界の学問教育への仮処分の強制執行がなされたという事態にまで発展し、今や大きな社会問題となっております。

何故、二十億円もの使途不明金が出たかを考えるならば、古田会頭のとってきた大学経営法、即ち、他の企業と全く同じに、営利主義に重点をおく大学経営法をみることが出来ると思います。 これを裏づけるものは マスプロ教育の代名詞に、日大の名前が使われる現状です。 日大生は、他の私立大生に比べ、高い授業料を払っているにもかかわらず、それが授業に何ら還元されることなく、スシ詰め教室で、マイクを使っての授業を受けているのです。 多くの学部では、キャンパスすらもない状態です。

この古田体制のバックボーンとなっているのは、現在の反動教育の重要なポイントともなっている産学共同路線、即ち、学生を現社会の求めている中堅技術者——批判能力の持たない、真の創造することを忘れた、社会の忠実な召使いとなり得る人間——に作り変え、送り出そうとすることなのです。 これが真の学問追求の場であるはずの大学の実状なのです。 こういう反動教育の下で、学生が真の人間性を追求し、自己解放を唱え、立ち上がった時大学当局はいろいろな非常な手段を講じてまで、これらを弾圧してきました。しかし、弾圧されればされる程、学生の自由を求める気持は、増々強くなり組織のエネルギーは 蓄積されてきたのです。 これら日大十万学生のエネルギーが、二十億円問題を契機に一挙に爆発したのです。 日大民主化闘争は人間の自由への第一歩なのです。

自由を求めようとする時、弾圧されてきたのは何も日大生だけなのでしょうか。 小さくは神田地区に象徴される文教地区一つを例にとっても、我々は言論、そして言論の本来の自由なる思想を規制してきているのは、目に見えています。 憲法で保障されている基本的人権をバックにしたところの、人間の自然の抵抗権すらも、暴力的、画一的に剥奪されようとしているのではないでしょうか。

再度、訴えたいと思います。 日大闘争が単なる学園の機構上の民主化だけを目的としているのではなく、学生の、人間の、自由を求める行動であることを！

日本大学全学共闘会議習志野闘争委員会